

6年：「世界の中の日本」は「つながり発見」で教える

愛知教育大学教授 寺本 潔

① 児童が1か国選ぶ理由

6年の3学期、日本とつながりの深い国々の中から児童が1か国を選んで調べて発表するという学習単元があります。世界には192の国があります。その全部と何らかのつながりがあるかもしれませんが、より深いつながりのある国はそれほど多くはありません。幸い、帝国書院『楽しく学ぶ小学生の地図帳』初訂版のp.65に載っている「世界のおもな国々と日本との結びつき」の統計で「日本への輸出」の欄に赤太字で記してある国がちょうど20か国あります。この赤太字は輸出額がとくに多いものを示しているので「日本とつながりの深い国」の候補とっていいでしょう。実際の指導では、経済だけでなく、歴史や文化、スポーツなどの交流の面でつながりの深い国も取り上げ、それらの国の人々の生活の様子を具体的に調べさせてください。衣服や料理、食事の習慣、住居を始め、学校生活や子どもの遊び、挨拶の仕方

やマナーなども取り上げることで外国の人々のものの見方や考え方を理解し尊重する態度を養うこととなります。問題は児童が選んだ国によって調べる資料の量に大きな差が生じることです。学校図書館や留学生、保護者などから収集できる情報量をあらかじめ把握しておき、教師が数か国指定しその中から児童に1か国選ばせる方法がベターでしょう。

指導のポイントは「家の近くに中華街があるから、僕は中国について調べます。」「わたしはお姉さんが夏休みにホームステイに行ってきたのでアメリカ合衆国にします。」「日本から一番近い国だし、キムチなど好きな食べ物があるので大韓民国を調べます。」というように調べようと思った理由、つまり自分の興味・関心という「つながり」をはっきりさせて学習をスタートすることです。外国の文化や人々の暮らしについては、知的好奇心がある児童ならすぐに1か国選べるでしょう。

世界の国別統計		⑧ 世界のおもな国々と日本との結びつき		「日本との貿易」中の赤太字は、輸出・輸入の額がとくに多いもの。					
国名	さくいん	面積 (万km ²) 2000年	人口 (万人) 2000年	首都とその人口 (02) は2002年をします (万人)(年)	日本との貿易				
					日本からの輸入		日本への輸出		
					(億円) 2002年	(億円)	2002年		
アゼルバイジャン共和国	49ウ2	9	805	バクー	179(99)	37	鉄鋼、機械類	0.9	アルミニウム
アフガニスタン共和国	49ウ3	65	2,177	カブール	245(99)	104	タイヤ・チューブ、自動車、機械類	2	美術品
アラブ首長国連邦	49ウ4	8	261	アブダビ	53(02)	3,687	自動車、エンジン、映像機器	14,503	原油、液化石油ガス
アルメニア共和国	49ウ2	3	380	エレバン	125(00)	1	機械類、自動車	3	美術品
イエメン共和国	49ウ5	53	1,830	サナア	178(00)	92	自動車、機械類	94	原油、石油製品
イスラエル国	49ウ3	2	604	エルサレム	63(98)	918	自動車、電子部品、コンピュータの部品類	945	ダイヤモンド、機械類、化学品
イラク共和国	49ウ3	44	2,295	バグダッド	469(99)	355	自動車	1,388	原油
イラン・イスラム共和国	49ウ3	165	6,366	テヘラン	716(99)	970	機械類、自動車、鉄鋼	5,926	原油
インド	49カウキ4	329	100,214	デリー	721(91)	2,339	エンジン、電気回路用品、鉄鋼	2,620	ダイヤモンド、鉄鉱石、えび
インドネシア共和国	50ケウコ7	190	21,049	ジャカルタ	937(97)	7,798	エンジン、電子部品	17,740	液化天然ガス、原油、機械類
ウズベキスタン共和国	49ウ2	45	2,475	タシケント	214(99)	21	タイヤ・チューブ、機械類、せんい品	92	金
オーストラリア	49ウ4	31	240	マスカット	4(93)	1,072	自動車、機械類、鉄鋼	2,625	原油
カザフスタン共和国	49ウウ2	272	1,490	アスタナ	32(00)	69	機械類、自動車、ニッケル類	123	鉄鋼、銅類
カスタール	49ウウ4	1	57	ドーハ	39(99)	462	自動車、液体用ポンプ、鉄鋼	6,571	原油、液化天然ガス、液化石油ガス
カンボジア王国	50ウ5	18	1,310	プノンペン	99(98)	87	船舶、映像機器、エンジン	94	はき物
キルギス共和国	49ウウ3	0.9	76	ニコシア	20(00)	623	船舶、自動車	3	魚介類、果実、アルミニウムくず
クウェート国	49ウウ4	2	219	ビシュケク	75(00)	2	タイヤ・チューブ	12	金
ルクセンブルク	49ウウ2	7	526	クウェート	3(95)	1,081	自動車、機械類	5,262	鉄鋼、石油製品、液化石油ガス
サウジアラビア王国	49ウウ4	215	2,035	トリポリ	131(99)	8	映像機器、鉄鋼、コンピュータの部品類	7	まぐろ、アルミニウム、機械類
シリア・アラブ共和国	49ウウ3	19	1,632	リヤド	318(99)	4,700	自動車、エンジン、映像機器	14,548	原油
				ダマスカス	227(99)	227	自動車、機械類、鉄鋼	28	綿花、石油製品

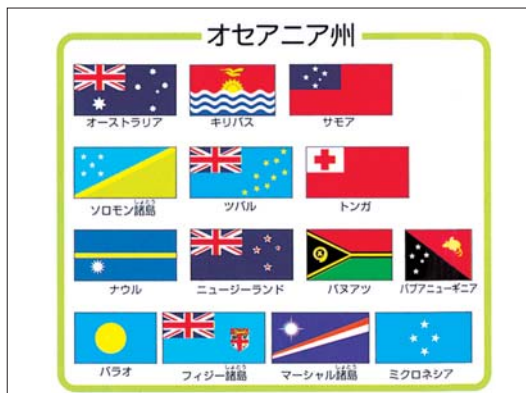
黒板に世界地図の拡大白地図を貼り付けて、名刺より大きめのサイズの付箋に児童の「名前」と「調べたい国名」、「調べること」と「調べる方法」の4つを書かせて白地図の国の位置に貼り付けることも楽しい作業になります。

中国やアメリカにはたくさんの付箋が貼り付けられることでしょう。「中国の料理や言葉について：図書館で調べる・留学生に聞く。」「ディズニーランドを生み出したアメリカ合衆国の人や文化について：インターネット・英語の先生から教えてもらう。」など、できる限り具体的に書き出させることで調べ学習が円滑に進みます。その際、できれば次の5つの項目について共通に調べておくように指示できれば、その後の発表会がまとまりのあるものになるでしょう。その5つとは、調べる国の面積、人口、首都名、おもな言語、国旗です。これらの統計数値や言語、国旗は地図帳の先にあげた統計と巻末の「世界の国々と国旗」(p.74~76)に多く掲載されています。

これらの共通項目を調べさせておけば、児童が調べた国と国が比較でき面白い発表会になります。

② 外国の位置や日本からの距離も調べよう

学習指導要領 社会『解説』にも記されている



帝国書院『楽しく学ぶ小学生の地図帳』(初訂版) p.75

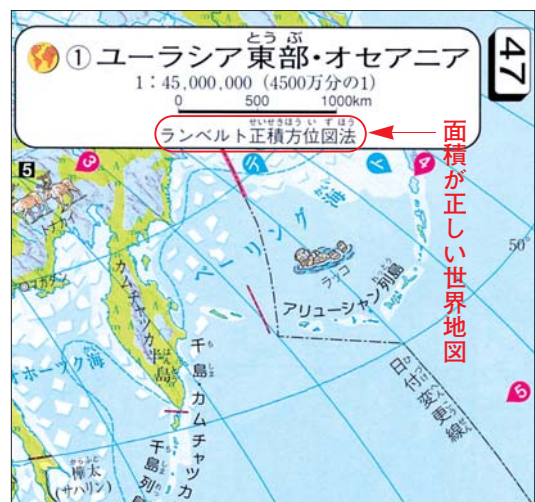
ように選んだ国の地形や気候に関しては深入りできないのですが、せめてその国の世界地図上での位置と日本からの距離ぐらいは地図帳で確認させてください。児童の頭の中の世界地図に調べた国がきちんと位置づくからです。p.65には国別に「さくいん」も掲載されているので大変便利です。ただし、地図帳の巻末に掲載されている世界地図では距離を測る際は要注意。

ミラー図法(面積が正しくない)で描いてあるため、正確なのは赤道上だけなのです。

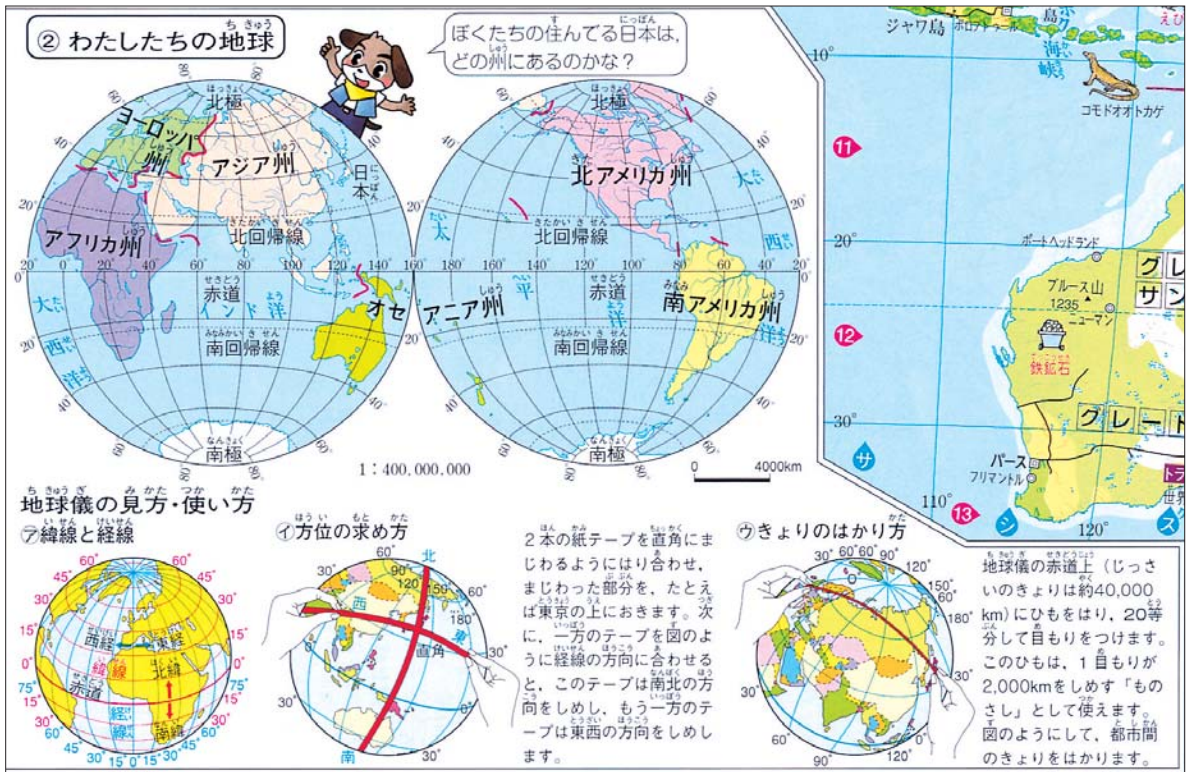
日本からの距離を正確に測りたければやはり地球儀や正距方位図法による世界地図を用いたほう



帝国書院『楽しく学ぶ小学生の地図帳』(初訂版) p.75



帝国書院『楽しく学ぶ小学生の地図帳』(初訂版) p.47



帝国書院「楽しく学ぶ小学生の地図帳」(初訂版) p.48

がいいでしょう。ただし、「1万3千キロ離れているよ。」と示しても実感がわかないので、航空機でいくと〇〇時間かかるというような扱いも併用してください。いずれにせよ、単にその国の人々のくらしや文化だけを調べて終わりでは、印象に残りにくいので頭の中の地図(メンタル・マップ)にしっかりと位置づけられるように扱いたいものです。

こうした学習に欠かせない作業が、「地球儀の見方・使い方」のコーナー(p.48)です。

細い2本の紙テープを直角に交わるように貼り合わせて日本の真東にアルゼンチンがあるという意外な気づきを生み出す作業学習です。日本からの方位と距離が測れるスグレモノの指導法です。できれば班に1つは地球儀を渡して実感的に指導したいです。しかし地球儀学習は今や小学校では

とんど行われていません。平面の世界地図だけではどうしても理解できない内容がいくつかあるのでぜひ、指導のあり方を見直してほしいです。

さらに、地球の姿に関心を持たせた際に六大州の名称にもふれておきたいものです。世界の陸地は大きく6つの大陸に分かれていること、このうち南極大陸を除く5つの大陸と付近の島々は6つの州に分けることができること、大陸の中でもユーラシア大陸はアジア州とヨーロッパ州に分けられることぐらいは小学校段階で教えておく必要があります。

③ 写真の撮影場所に注目させよう!

各大陸・州別の世界地図がp.47以降掲載されています。この中にユニークな凡例が入っています。「日本のおもな輸入品」「なんでも世界一」「物語



■メディナの小学校(サウジアラビア)「コーラン」という教典を覚える授業の様子のようです。サウジアラビアの学校は、男子と女子は別々になっています。



帝国書院『楽しく学ぶ小学生の地図帳』(初訂版) p.49

のぶたいとなったところ」「写真の撮影場所」の4つはとくに面白い記号です。

たとえば、中国の場所には三国志の絵記号()が貼り付けられています。これを手がかりに児童に中国の文化について調べさせれば、三国志マニアが誕生するかもしれません。

一方、各ページ下部にある写真は撮影された地点が正確に地図上に示されているため、リアリティがあります。たとえば、p.49の写真1「メディナの小学校」の写真は地図で探せば、サウジアラビアの砂漠の中の街であることがわかります。

ここで「この写真からわかることを3つ書き出さない。」と指示するだけで「白い帽子を被っている。」「男の子だけが教室にいる。」「皆右手で何か指している。」という程度の読み取りはすぐにできます。これらの発見からイスラムの人々の暮らしに関心を持たせるきっかけとなるでしょう(写真参照)。イスラムの国についての情報は日本では多くないのですが、東京や神戸にはモスクもあります。また、探せば中東やインドネシアから

働きに来ている人たちがいます。

そういった国の人をゲストティーチャーとして教室に呼んで、児童に中国・韓国やアメリカ、フランスだけでない国の文化にも関心を持たせてあげたいものです。

ところが、小学生が世界を知らない実態があります。世界の地理的知識がとても軽薄になっています。発達段階からいっても外国を学ぶには6年生は遅すぎる学習時期ですが、中学校にあがってから苦勞させないためにも「世界の中の日本」の単元について地図帳や地球儀を使ってしっかりと指導しておく必要があります。地図帳の世界地図を見るだけでは、世界の地図的イメージは定着しません。地図にトレーシングペーパーをかぶせて大陸や国の形をなぞらせたり、“指旅行”で海外旅行を図上で楽しんだり、白地図を作らせ、調べたことを記入させたりするなど作業的な学習を丹念に実施することで子どもたちの地理的学力が向上していくことでしょう。